

今日は、「型破り」と「形無し」についてお話ししたいと思います。とても有名なお話なので、聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれませんね。

無着成恭というお坊さんがいらっしゃいました。残念なことに、今年の夏にお亡くなりになってしまいました。教育者でもある無着成恭先生は、長い間、『全国子ども電話相談室』の回答者としても活躍されていました。たくさんの逸話がある先生ですが、その中で、「型破り」と「形無し」についてお話しされたことがあります。

「基礎がしっかりできていて、そのうえで型やしがらみを打ち破ることが“型破り”で、基礎も何もできていないのに、あれこれとやることを“形無し”というんだよ。」

これは、「基礎がしっかりできている人は、ルールを守りながらも、そこから新しいことを生み出せる。しかし、基礎ができていないのに何でもやろうとすると、うまくいかず“形無し”になってしまう。だから、最初はしっかりと土台を作ることが大切だ」ということです。

私はこのお話を聞いたとき、私たちが何かを学ぶ際の本質が凝縮されていると感じました。私は英語を教えている立場として、英語学習においても同じように基礎が大事だと強く思っています。

学校で英の文法を学んでも、思うように話せないため、「英語でコミュニケーションを取るためには、学校で習うような英文法は必要ないのでは？」という意見をよく耳にします。しかし、文法を学ぶことは、単にルールを暗記することではありません。それは、言葉の構造を理解し、正確に使う力を養うことです。この基礎があるからこそ、英語を自由に使いこなす“型破り”な力が育つのです。

英語を話せる人は、基礎が身につけており、無意識のうちにその基礎を活用しています。相手の表現を正確に聞き取ったり、読み取ったりするためには、文法という基礎が必ず必要です。話したり書いたりする際も、自分の伝えたいことを正確に表現するためには、この基礎が欠かせません。

基礎がしっかりしているからこそ、私たちは自由に表現でき、より高度で“型破り”なコミュニケーションに挑戦することができます。文法のルールなしで覚えたフレーズは、“形無し”であるため、忘れやすく、応用もしづらいのです。

最後に、私が皆さんにお伝えしたいのは、英語を学ぶ際に「基礎をおろそかにしないでほしい」ということです。そして、その基礎の上で、どんどん話したり書いたりするアウトプットに挑戦し、自分の可能性を広げていきましょう。それこそが、英語を学ぶ楽しさであり、真の英語力を身につける方法だと私は思います。